7. 5 いのるアンケート抄-Q. 私の呪術体験-

Facebook「とある民俗学講師の補足メモ」

- ・よくある呪術：てるてる坊主、語呂合わせ、乳歯を投げる、「人」という字をのむ、各種占い、姓名判断、合格祈願…
- ・呪術「のようなもの」：習慣、ジンクス、（純粹に内面的 or 無目的な）祈願、礼儀作法、神秘体験（金縛り etc）…
- ・人は自らの努力に結果を求める？（非合理であろうが）因果関係を求める想像力のたくましさ
- ・人は些細な出来事に意味を求める？ 生活世界を受容／承認するツールとしての呪術
- ・マスメディアにより普及する呪術、テクノロジーと関連した呪術：呪術的思考の普遍性

〔呪術？〕小学生のとき子供会旅行でUSJに行った。ベッドが4つと、大きな鏡がある部屋で泊まった。夜中の2時頃、友達がふざけて電気を消してすぐにつけると、大きな鏡が手形でいっぱいになっていた。自分含めて4人は鏡に触れる位置にいなかったの、その手形は誰の者か分からないままである。

〔呪文〕友人と京都府の舞鶴市にキャンプに出掛け、夕食にカレーを作っていたのですが、そこで友人とともに「おいしくなあれ、もえもえきゅん」という掛け声でおまじないをしました。科学的には声をかけるだけで実際においしくなることはあり得ないですが、なぜかその日に食べたカレーは人生で一番おいしく記憶に残るものになりました。

〔合格祈願〕京大受験の日、吉田神社にお参りすると落ちるみたいなジンクスが存在することを聞き、鳥居を目にしないうちに東一条通を歩いて正門から入った記憶がある。見ていたら落ちたかもしれないと思うとゾクゾクする。

〔予兆〕母親の左目の脇に違和感があるとき（数秒間痙攣している感じ）、数日以内に家族誰かが不幸に見舞われます。この不幸の種類にはかなり幅があります。例えば私が小学6年春休みの時、ローラースケートで骨折した2日前に母親の目に違和感があったり、中学1年の時には大きめの夫婦喧嘩があった日の昼に実は違和感があったことがわかっていたりします。この違和感に母が気づき話題に上がった時は、たまに回避できたりします（大阪市）。

〔こっくりさん〕私は昔から手順の決まっている何かを実行するのが好きだったため、おまじないだとかトイレの花子さんと呼ぶ儀式だとかが載っている本をたくさん買っては片っ端からやっていた。一番記憶に残っているのは「ひとりこっくりさん」だ。なにかの小説に乗っていたもので、鳥居と「はい」「いいえ」と五十音が書かれた紙を用意し、十円玉を鳥居に置くというところまでは普通のこっくりさんと同じなのだが、こっくりさんと呼んだあと、私たちはこっくりさんに質問するのではなく、叶えてほしい願いを言うのだ。そのあと、こっくりさんは十円玉の移動によってその願いを叶えるにあたって払うべき代償を教えてくれる（みぎてけが、など）。私はこのお話を読んで面白いなと思い、定期的をやっていたのだが、十円玉が鳥居から動いたことはなかった。

〔民間療法〕母の地元である北海道天塩郡豊富町に住んでいた時に、祖母から多くの呪術的な民間療法を教わった。馬は穏やかな性格である上に移動手段としても、野生動物の見張りとしても優秀で、開拓時代から重宝されており、いつしか万能な存在に。その万能さは医療にも及び、馬肉は悪いものを吸い取ってくれるといわれ、幼い頃、私が突然の高熱にかけり医者が匙を投げたときも、私の体に馬肉を貼ったことで熱が一気にひいたそう。また、大祖母が病気で死にそうになったとき（1960年頃）、曾祖父がとってきた蛇の心臓を毎日食べていると一カ月で治ったらしい。今は蛇をとる慣習が薄れたため、ウナギで代用されている。近所の心臓の弱いおじいさんがうちによくきては、祖父がとってきたヤツメウナギの心臓を丸のみしてスッキリしたといっって帰っていった。

【魔除け】高校2年の修学旅行の行き先は沖縄県本島。母に赤色の麻の紐と塩の入った赤い小袋を渡された。魔除けになるからという理由で持たされた。小学生の時に水遊びの後、高熱を出したことがあり、遠方でマリンスポーツも組み込まれた修学旅行に行くことを母が心配したからだ。私もなんとなく恐怖を感じていたので素直に従った。麻ひもは一日ごとに取り換え、夜になったらハサミで断ち切り、捨てた。塩はズボンのポケットに入れたまま過ごした。結局、無事だった。

【お祓い】2023年12月、高知市の実家で先祖を祀るためのお祭りがあった。土佐神社の神主さんを家に招いてお祓いをしたのだが、その時、後ろの方にあるリビングから玄関にかけて、何かがダダダッと走るような音がした。何か厄が家から出ていったのだろうと両親は言った。それのおかげだろうか、私は3ヶ月後に京大に合格できた。

【犬神憑き】徳島県西部の山奥にある、犬神憑きを落とす日本随一の神社、賢見神社。四国では動物霊による憑依・呪いが民間信仰として伝えられ、医学的に不明な病はそれらが引き起こしたと考えられていたそう。私が幼い時、病気を起こし、祖父母につれて行ってもらったのを覚えている。不思議なおまじないを受け、症状が軽くなった気がした。

【藁人形】私の実家の近くには神社があった。その神社の木には定期的にわら人形が打ち付けられ、人の顔写真とともに打ち付けられるそのわら人形は小さい頃本当に怖かった記憶がある。

【霊能者】中学生の頃、学校で同級生との人間関係で問題を抱えていた。母に相談すると、知り合いの宗教関係者に相談した。「対象の先祖や背後霊を清めることで、対象自身もその人に関係する霊も過ごしやすくなり、私との人間関係も良好になっていく」と言われ、関係霊の護摩を頼んでもらった。効果は特に感じていないが、どんな人でも人にはいろいろな側面があって、見えなくても常に何らかの問題を抱えている状態にある、という視点は得られたと思う。

【ムダン】私自身ではなく、私の周囲の話です。韓国ではシャーマニズムが存在し、それを信じる人が今でも結構多いです。実際、韓国で有名な事業家たちは仕事をする前にまずムダン（巫女）のところを訪ね、彼らがやろうとする事業がどうなるかを尋ねるといふ噂も出回るほどです。「ムダン」は神と人を結ぶ媒介の存在として信じられています。ところで、誰でもムダンになるわけではありません。神に選ばれて、謎の病気を患った後に「シンネリム（神下ろし?）」という特定の儀式をするという過程を終えたらムダンになります。彼らは儀式と祈りを通じて、彼らが祭る神から神聖な能力をもらおうと信じられます。そのように受けた力で、彼らを訪ねてくる人々の未来を予言したり、各自が抱えている悩みや問題などを解決できるように助けてくれるそうです。実際、私の母の友人は、昔、有名なムダンを訪ねて自分がいつ結婚するかを聞き、「あなたは2年後にこのような人と結婚する」と予言してもらったらしいです。その後、本当に2年後そのムダンが描写したような人と結婚することになって驚いた記憶があります。ムダンが行う儀式を韓国では「グッ」と呼び、鋭い刃や火の上で音楽に合わせて踊るような行動を通じて、神に供え物を捧げ、人間の願いが叶うことを祈るそうです。

【LINE呪術?】私の姉の話ですが、昨年冗談で友人に「呪う」とLINEを送ったそうです。その友人は「呪い返し術」の合宿勉強会に行ったことがあったためか、その後、姉はコロナとインフルに連続で感染し、骨折も2回しました。姉曰く、呪い返しではなく厄年だからだ、ということでしたが、どちらにしても呪術的な出来事でした。

【!】私が京都の左京区にある古い寺を訪ねた際、不思議な出来事があった。寺の裏庭を歩いていると、突然、僧侶風の男性が近づいてきて、「あなたには邪気がついている」と言われた。驚きつつも彼に勧められるまま、お祓いを受けることにした。僧侶は木製の棒を使い、私の周りを静かに歩きながら何かを唱えていた。すると、急に全身が温かくなり、ずっと続いていた肩こりが和らいだような感覚があった。その後、長引いていた不眠症が嘘のように治まり、夜はぐっすり眠れるようになった。あの寺での体験が影響したのか、今でも不思議だ。